# 高根沢町定住人口

# 増加プロジェクト

―『定住人口４万人』への挑戦 ―

【概要版】

2015 年 2 月

栃木県　高根沢町

# どうして4万人なの…？

## 国レベルの危機感

# 人口は地域の力の源。今から対策を！

全国的に人口減少が進んでいる中で、人口対策は高根沢町にとっても将来的に大きな課題であり、町が今日まで培ってきた歴史や文化、地域の個性などを後世へと伝えていくため欠かすことのできない取組みです。また人口は、行政が安定的に、これまで同様の公共サービスを提供するための源でもあります。

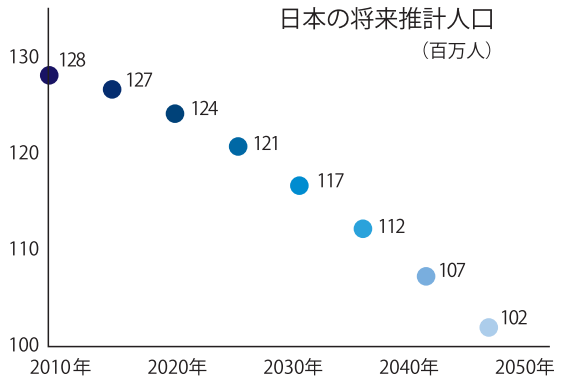
人口の減少を放置することは、今後起こることが想定される様々な課題に対して、何ら対処しないことを意味します。

そのために…

**プロジェクトを策定します**

## 1 人口減少／国では…？

### 2050年／人口が9,700万人！？

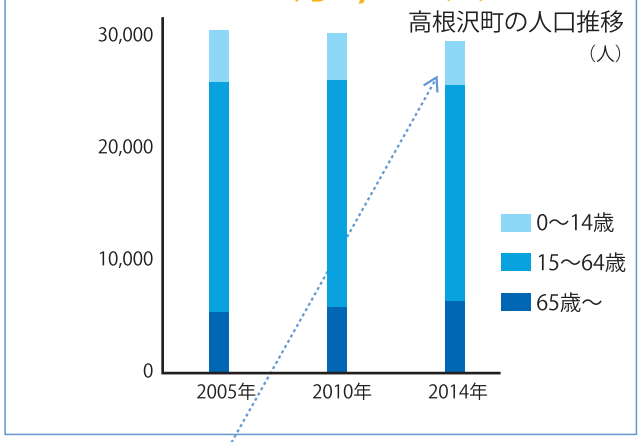



2040年に、20～39歳の女性人口が、49.8%の市区町村で５割以上減るとする推計が示されました。「日本創成会議・人口減少問題検討分科会提言『ストップ少子化・地方元気戦略』（2014年5月）より」

2014年9月に、「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上がりました。

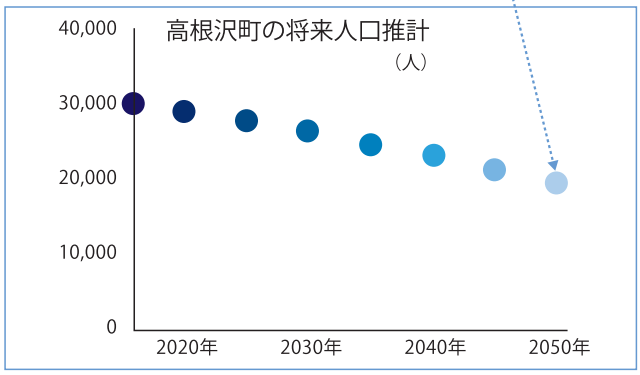
## 2 人口減少／高根沢町では…？

### 2050年／人口が1万9,000人！？




2006年４月１日
30,943人
2014年４月１日
29,780人

2030年代
2万5千人台
2050年
1万9千人台




**check!**

2010年に約１億2,800万人だった我が国の人口は、2030年には約１億1,700万人に、2050年には約9,700万人まで減少すると予測されています。

人口急減・超高齢化の流れを変えることは容易ではありませんし、流れが変わっても、効果が現れるには長い時間を要することから、今から対策に取り組むことが必要です。

# プロジェクトって…？

2050年（35年後）を目標に

# 『定住人口４万人』への挑戦

## 1 位置付け —既存の計画類と補完関係—

プロジェクトと既存の計画類（地域経営計画や各分野別計画）との関係は、相互に補完し合う役割となります。また同時に、人口対策の観点から新たな可能性や方向性を示し、既存の計画類において組み立てる方針や方策に対して、問題提起を行うものでもあります。

本プロジェクト ⇔（補完）／→（問題提起） 既存の計画類

## 2 期間 —2050年を目標に—

減少に転じた人口を抑制しながら、増加に転ずるための仕組みづくりを進めます。

【計画期間】

2015年～2050年

（平成27年～平成62年の35年計画）

## 3 構成

分析（「いま」と「これから」 P3～4）（「強み」と「弱み」 P5）

→ 分析の整理 戦略の立案（P6上段）

→ 高根沢町が克服しなければならないこと、目指すべき姿（P6下段）

↓

目指すべき姿への取組み（P7～9）
1.地域コミュニティの再編・再構築　2.土地利用の見直し
3.就労機会の拡大　4.定住人口増加に向けた施策の展開

← 取組みを補完

考察（P10）
1. キリンビール跡地利用の考察
2. シティプロモーションの考察

## 4 推進体制

町行政はもちろんのこと、町民の皆さん、関係団体、企業、NPO、大学、金融機関など、あらゆる分野の皆さんと連携しながら推進します。

## 5 プロジェクトの見直し

流出人口の抑制状況や定住人口の増加状況を常に把握しながら、定期的に既存の計画類との調整を行い、具体的な取組みへと反映させていきます。

## 分析します

★何を分析するの…？、なぜ分析するの…？

『定住人口4万人』に向けた取組みを考えていく前に、町の「いま」と「これから」あるいは「強み」と「弱み」を正確に把握するために、情報を集め、分析します。

★どうやって分析するの…？

統計などによる客観的なデータを把握すること（※ポテンシャル調査：P3～4）で「いま」と「これから」を、町民の皆さん対してアンケート及びインタビューを実施し、実態に即した生活実感を把握すること（※トレンド調査：P5）で「強み」と「弱み」を分析します。

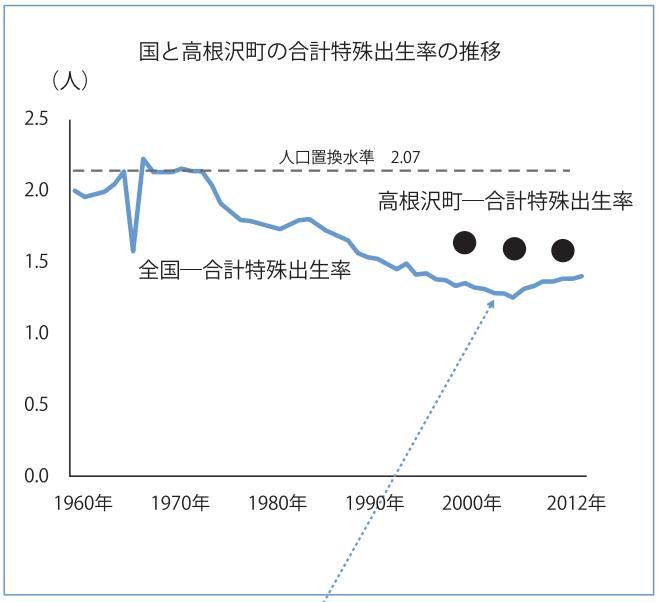
# まずは分析から ポテンシャル調査

統計から「人口」、「産業・経済」、「生活」の…

# 「いま」と「これから」を知る

## 1 人　口

### 全国的に、出生率は低迷
### 高根沢町（1.57）は、やや高い水準




合計特殊出生率（2011 年）
国：1.39　県：1.38　町：1.57
「厚生労働省『人口動態統計』（2011 年）より」

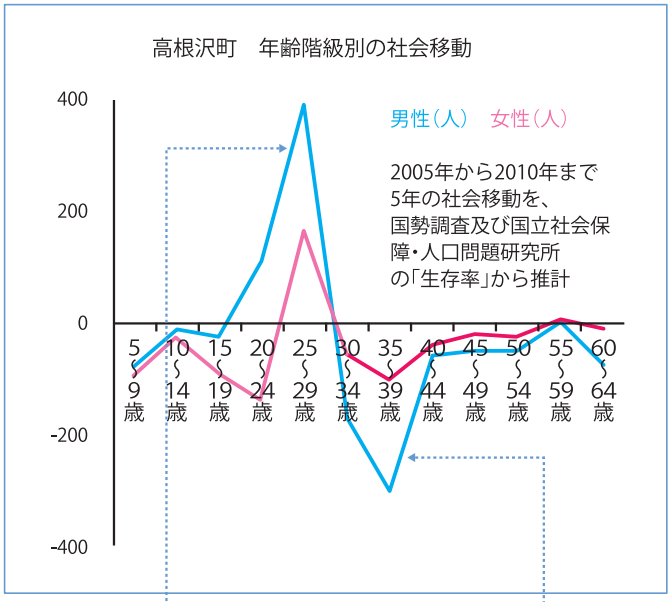
『合計特殊出生率』って？
「15 歳～ 49 歳までの女性の年齢別の出生率を足したもの」で、一人の女性がその年齢別の出生率で一生の間に生むとしたときの、子どもの数をいいます。

**check!**

自然増減はライフスタイルの多様化などによって、問題が複雑かつ多岐にわたりますが、結婚適齢期の女性が結婚しなくなりつつある状況などが、少子化の要因とされています。

結婚活動推進、魅力的な子育て環境つくりなど、子育て世代を増やし、出生率を向上させていくことが、『定住人口増加』へのポイントです。

### 20代は流入（増加）
### でも、30代は流出（減少）




就職による
転入…？

マイホームの
取得による
転出…？

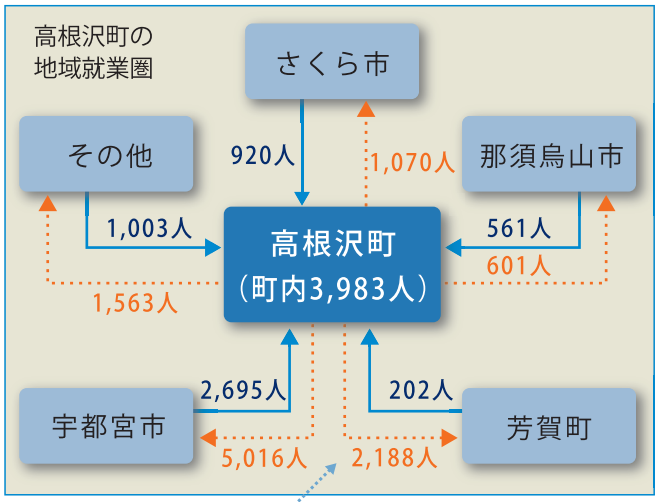
**check!**

20 代の転入、30 代の転出は、年齢的にみて、就職を機に転入し、結婚や子育てを機に、マイホームを取得したことにより転出していると推測され、この状態が続けば、人口減少も続くことになります。

一方で、一般的な地域の場合、10 代後半から 20 代前半にかけて人口減少がみられる（東京圏への就学や就職？）のに対し、高根沢町の場合は、20 代前半の人口増加がみられることが特徴です。

この特徴を活かす（転出を抑制する）取組みを考えることが、『定住人口増加』へのポイントです。

## 2 産業・経済

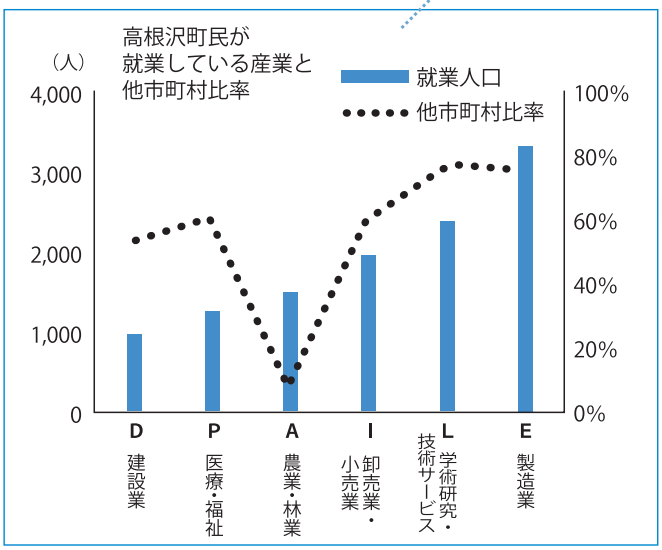



高根沢町に住んでいる人の通勤や通学は、高根沢町を超えて、周辺市町に広がっています。

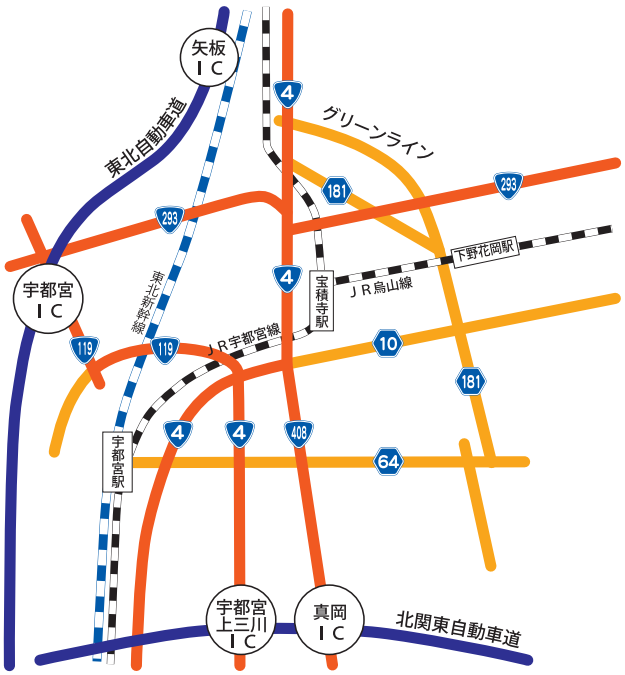
人数や業種を問わず、他市町に勤める人が多い状況にあります。

このことから、高根沢町の経済は、周辺市町から収入を獲得していることがわかります。

「総務省『国勢調査』（2010 年）より」




## 3 生　活




### check!

高根沢町は典型的な内陸型気候で災害が少なく、一方で都市部との交通アクセスに優れるという、バランスの良い地理的条件をもっていますので、この条件の良さを活かすことが『定住人口増加』へのポイントです。

### check!

「町内に就業機会がない」とマイナスに捉えられる一方で、通勤圏からみると、「近隣市町に就業機会が多く恵まれている」とプラスにも捉えられることが、高根沢町の特徴となっています。

この特徴（周辺市町の工業団地、研究タイプの高度産業団地）を活かしながら、就業機会の拡大を図っていくことも、『定住人口増加』へのポイントです。

### ポイントのまとめ

1. 人　口
   - 20 代（特に男性）の大幅な転入　・30 代の大幅な転出
2. 産業・経済
   - 町内から町外に展開する、高度、大規模工業（産業）団地
3. 生　活
   - バランスの良いロケーション（気候、交通アクセス、景観）

もう一つの分析へ

# もう一つの分析 トレンド調査

「生活目線」の「みなさんの声（実感）」を把握し…

# 「強み」と「弱み」を知る

## 1 トレンド調査の概要

1. 地域住民代表者アンケート
　・回答数 47 名（回答率 87%）
2. 農業代表者アンケート
　・回答数 15 名（回答率 100%）
3. 商工業代表者アンケート
　・回答数 19 名（回答率 68%）
4. 小中学生アンケート
　・回答数 20 名（回答率 100%）
5. 転入者・転出者アンケート
　・回答数196名（回答率 100%）

## 2 調査結果

### 「強み」

| 順位 | 項　　目 |
|---|---|
| 1 | 豊かな田園風景など自然環境に恵まれている |
| 2 | 東京や宇都宮に近く、地理的な優位性が高い |
| 3 | 鉄道や道路など交通の利便性が高い |
| 4 | 地域のつながりが強い |
| 5 | 就労場所が豊富、近い |

### 「弱み」

| 順位 | 項　　目 |
|---|---|
| 1 | 就労場所が少ない、遠い |
| 2 | 土地利用の制約が多く暮らしにくい |
| 3 | 身近な場所での買い物の利便性が低い |
| 4 | 若者が減少、活力がない |
| 5 | 土地（地価）が高く住宅が建てにくい |

**check!**

ポテンシャル調査で指摘された「地理的な優位性」のほか、「地域のつながり」が上位にランクされ、お互いの顔のみえる関係を、町民の皆さんが「強み」と感じていることがわかりました。

ランク外となった「子育て環境」や「教育環境」は、「弱み」が「強み」をやや上回ったことから、これらの改善に取り組んでいくことも、『定住人口増加』へのポイントです。

**check!**

「就労」及び「居住」に大きな課題があることが浮き彫りとなりました。

土地利用の制約から宅地の供給が少ない、あるいは土地が高いなど、魅力のある持家が不足しているといった状況が、30代以降の子育て世代の人口流出につながっていると考えられることから、宅地の供給などの対策に取組んでいくことが、『定住人口増加』へのポイントです。

**分析を整理します**

課題を克服していくには、分析を検証すること（戦略）が必要です。

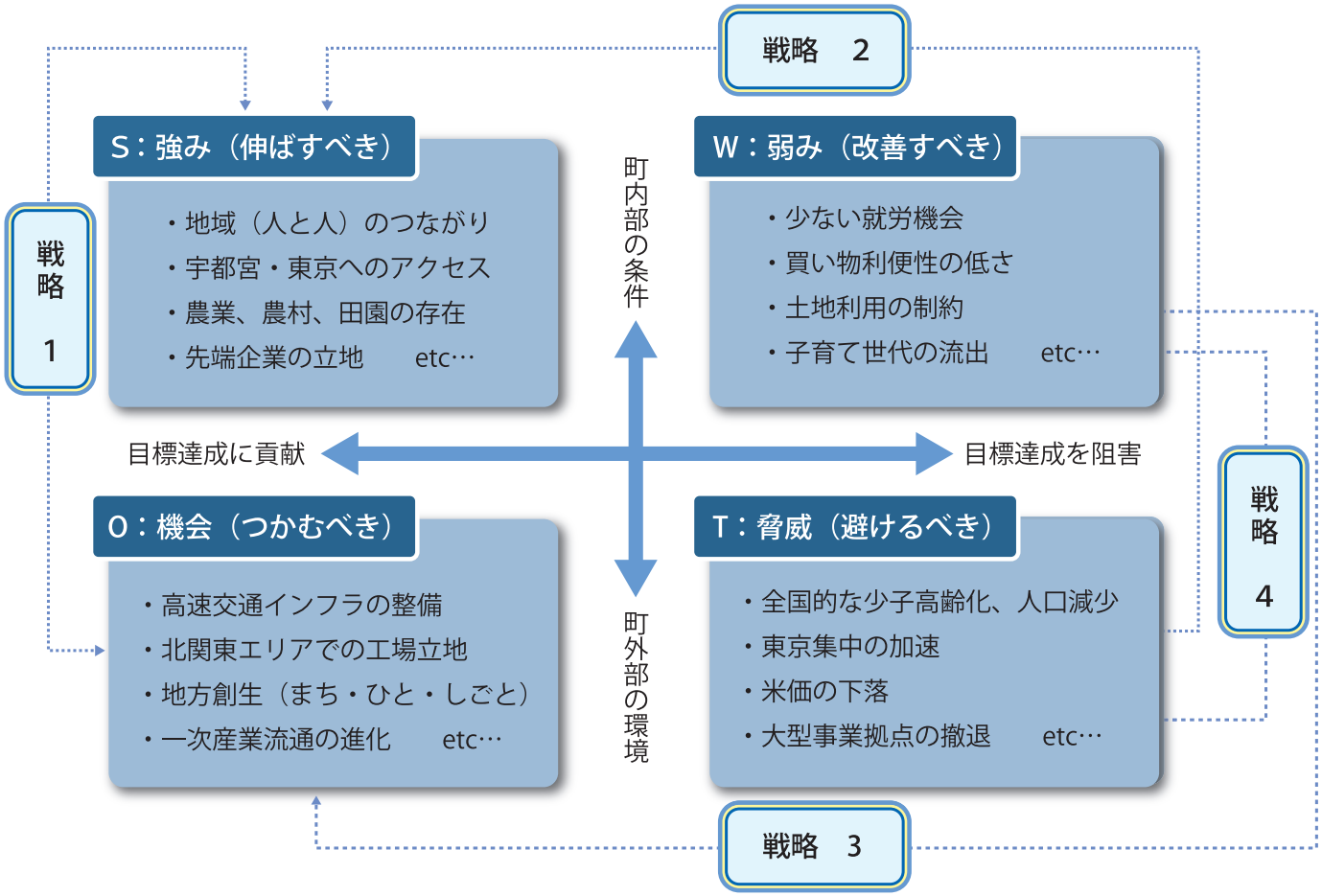
次ページでは、ＳＷＯＴ分析という手法を用いて、まず分析で浮き彫りになった現状と課題を、「強み（Strengths）」、「弱み（Weaknesses）」、「機会（Opportunities）」、「脅威（Threats）」に整理した上で、「どうやって強みを伸ばすか？」、「どうやって弱みを克服するか？」など、『定住人口増加』に向けた戦略を立案します。

# SWOT分析で戦略立案

現状と課題の把握から、戦略の立案へ…

## 「克服しなければならないこと」「目指すべき姿」

### 1 SWOT分析（分析の整理、戦略の立案）




### 2 導き出される４つの「克服しなければならないこと」、「目指すべき姿」

| | | |
|---|---|---|
| 戦略　1 | 強みを活かして機会をつかむ | 戦略１・２・３から「目指すべき姿１」～地域コミュニティの再編・再構築～　P７ |
| 戦略　2 | 強みを活かして脅威を避ける | 戦略２・３・４から「目指すべき姿２」～土地利用の見直し～　P８ |
| 戦略　3 | 弱みを克服して機会をつかむ | 戦略１から「目指すべき姿３」～就労機会の拡大～　P９ |
| 戦略　4 | 弱みを克服して脅威を避ける | 戦略１・２・３・４から「目指すべき姿４」～定住人口増加に向けた施策の展開～P９ |

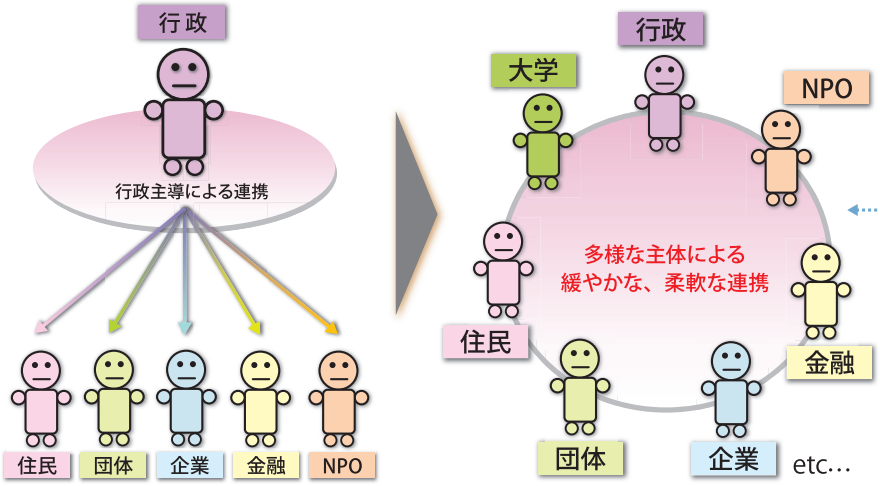
目指すべき姿１

# 地域コミュニティの再編・再構築

地域の個性を守り、
地力をアップさせるための…

## 緩やかな、柔軟な連携

### Challenge! 住民による、住民のための緩やかな、柔軟な連携




多様な主体による柔軟な連携を活性化させていくことで、地域コミュニティが個性化し、地力がアップしていきます。

### Challenge! 将来的な地域コミュニティ制度の検討

**こうありたい！地域コミュニティ**

- 教育や日常生活において、面識のある人が多い。
- 防災や防犯の取組みがしやすい。
- 祭りなど、交流をする機会が多い。

⇓

小学校区を単位とする新たな地域コミュニティ

将来的には、地域コミュニティの再編・再構築を視野に入れ、時間をかけて…
■仕組み（制度）　■拠点
■各コミュニティを繋ぐもの
…を議論していきます。

**check!**

人口減少は、自主防災組織の維持をはじめとする町の取組みの浸透に大きな影響を及ぼすほか、何より地域の人的資源が枯渇していくことによって、将来の地域コミュニティの維持すら困難になることも予想される状況です。

このため『定住人口4万人』への挑戦では、「単なる人口増加」という観点ではなく、「地域の個性（特性）を守る」という観点から、人的資源を含めた地域資源を、最適に配分する取組みを進めることで、「地域の地力増強（個性化）」を図っていきます。

将来的には、より広い範囲の課題に、行政区が協力して対応できるような新たな制度を作っていくことも視野に、課題の提起を含めて、町民の皆さんと協議をさせていただきたいと考えます。

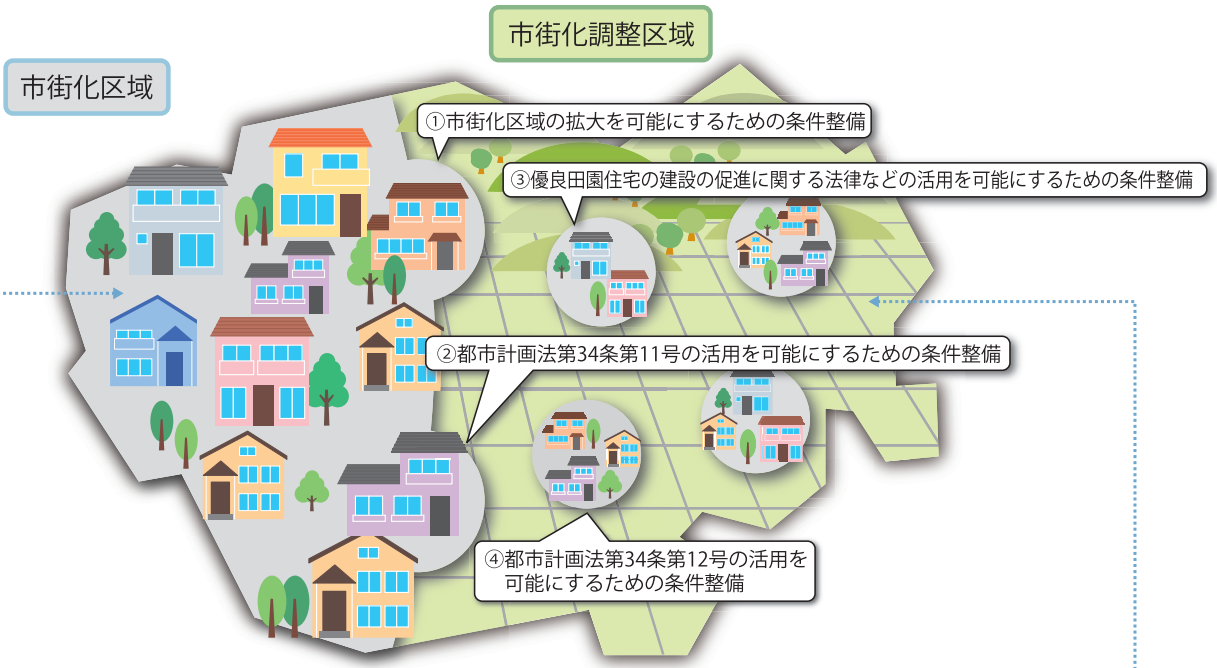
目指すべき姿２

# 土地利用の見直し

地域のつながりを守るための…

## 新しい土地利用の可能性

Challenge! → 無秩序な開発（スプロール）ではない、高根沢町版コンパクトシティ




・市街化区域で利用されていない土地を、利用されるよう…、
・ニーズに合った利用がされるよう…誘導をしていきます。

みなさんからのニーズが高い、「市街地整備事業」、「下水道事業」を推進します。

・地域の皆さんのニーズや機運の高まりをみながら、必要に応じて…、
・地域コミュニティの個性を守り、地力をアップさせるために…

宅地を供給することのできる条件整備に向けて、取組みを進めます。

＜条件整備とは…？【例】＞
・地区計画制度
・優良田園住宅制度
・特区制度　　etc…

check!

「トレンド調査」の「町の土地利用に対する考え」をみると、「現状のままでよい」とする回答はほとんどなく、「市街化区域と市街化調整区域で住宅地を増やすことが必要」という回答が最も多く寄せられ、人口減少、地域コミュニティの衰退などに対する皆さんの危機意識が浮き彫りになった結果となりました。

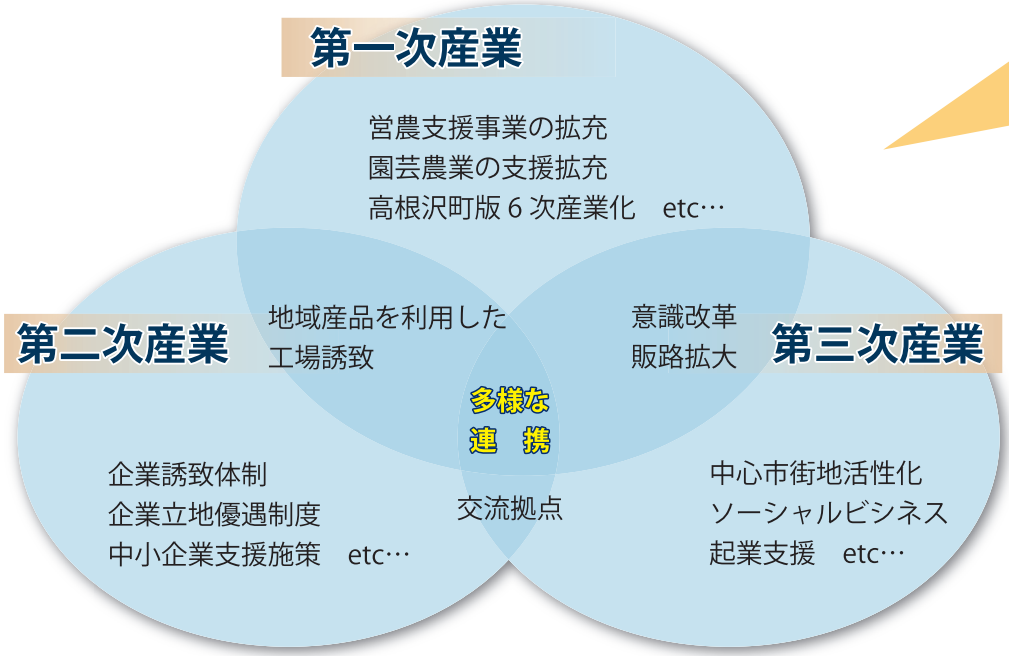
このため今後は、宅地の供給について、無秩序な開発ということではなく、町のあるべき都市計画や景観保全とのバランスをとりながら、そして「地域資源の最適配分、地域の地力増強（個性化）」の観点を十分にふまえながら、規制緩和の可能性等も視野に、町に合った新たな土地利用を考えていきます。

目指すべき姿

# 3.就労機会の拡大
# 4.定住人口増加に向けた施策の展開

連携によりながら…、
切れ目なく…、
**新たな視点でサービスを創出**

## Challenge! 多様な連携によりながら、就労機会を創出




### check!

大規模工業（産業）団地の一部分という特徴を、「強み」である若い人材の流入にマッチングさせる取組みや、伝統的な農業エリアであるという特徴を、付加価値を持った産業の創出により、米価の下落といった「脅威」の克服につなげていく取組みを進めます。

カギとなるのが、連携です。町民の皆さん、関係団体、企業、ＮＰＯ、大学、金融機関、行政など、あらゆる分野の皆さんと連携しながら取組みを進めます。

## Challenge! 切れ目なく、きめ細やかにサービスを創出

**定　住**
【取組み例】
・ワンストップ窓口
・住宅取得支援 etc…

**住　環　境**
【取組み例】
・市街地整備事業の推進
・空き家対策　etc…

**結　婚**
【取組み例】
・結婚活動推進
etc…

**出産・子育て**
【取組み例】
・保健医療体制強化
・サービスの質の向上 etc…

**教　育**
【取組み例】
・経済的負担のあり方
検討　etc…

### check!

現時点で町が取組んでいることを、『定住人口４万人』に向けた新たな視点で見直していきます。特に焦点を当てるべきところは、子育て世代の転出抑制・転入促進です。様々なライフイベント（機会）に切れ目なく、きめ細やかに対応していく取組みを常に模索していくことが、子育て世代の皆さんに安心をもたらします。

# 考察

# 『定住人口４万人』への挑戦を補完する可能性を秘めたもの

check!

★「補完」ってなに…？
「町が直接取組むことではないけれども、『定住人口4万人』への挑戦に大きな影響を及ぼしそうなこと」や、「直接『定住人口増加』には結びつかないけれども、今後重要と思われること」、つまり「将来的に『定住人口4万人』への挑戦を助けて（補完して）くれるもの」という意味で、次の2つの可能性を考察しました。

## 1 キリンビール跡地利用の考察

- 跡地は町の財産ではないことから、行政主導で利活用を進めていくことはできません。
- シミュレーションとして、キリンビール跡地の利活用のされ方が、『定住人口４万人』への挑戦に対して、どのような影響を及ぼすかを考察しました。

| 利活用のアイディア【例】 | 可　能　性 | 課　　題 |
|---|---|---|
| 製造業 | ・就労機会<br>・域内総生産 | ・公害 |
| 宅地分譲 | ・土地制約の緩和<br>・新たな地域コミュニティの可能性 | ・法規制（成立要件、開発許可など） |
| ショッピングセンター | ・就労機会<br>・買い物利便性 | ・法規制（成立要件、開発許可など） |

跡地の開発には、都市計画法をはじめとする諸法令の許認可が必要です。
跡地の利活用が具体化した場合は、早い段階から、関係機関との事前協議等、調整を行っていきます。

## 2 シティプロモーションの考察

- プロモーションは、ターゲット（誰に対して？）、メッセージ（何を？）、場（どこまで？）など、組み立て方によって効果が変わってきます。
- 『定住人口４万人』への挑戦を助けるためには、どのような組み立て方をすべきかを考察しました。

『シティプロモーション』って？
町内外の人に、高根沢町を「知ってもらう」、「好きになってもらう」、「誇りをもってもらう」などの取組みをいいます。

**【町内】定住人口**

「知る」
魅力をつかまえる
魅力に誇りをもつ

田園風景？
子育て？
交通利便性？
etc…

**【町外】交流人口**

「発信する」
知ってもらう
好きになってもらう

田園風景？
子育て？
交通利便性？
etc…

まずは目的・ターゲット・メッセージをハッキリと決めた上で、事業化を検討します。
その際は、一定の効果（訴求力）を得るためにも、一定の資源（ヒト・モノ・カネ）を集中的に投下することを検討します。

『定住人口４万人』への挑戦にあたっては、町民の皆さんの「町民力」（※皆さんが、地域の課題解決や活性化に、自らの発意で取り組む力。地域を支える多様な主体とのかかわりにおいて、積極的に議論を行い、合意形成しながら取り組む力。）が必要です。

行政もこれまで以上に、皆さんのニーズや国等の動きにアンテナを高くしながら、既成概念に捉われない柔軟な発想で、高いハードルを越えるための努力をしていきます。

『定住人口４万人』への挑戦を契機として、一緒になって、新しい高根沢町の魅力・活力を創り出していきましょう。

**高根沢町　夢咲くまちづくり推進課**

〒329-1292　栃木県塩谷郡高根沢町大字石末 2053

TEL 028-675-8113　　FAX 028-675-2409

E-Mail　machi@town.takanezawa.tochigi.jp

町ホームページ

TOP　＞　高根沢の町政　＞　高根沢町４万人構想の取組み